

2013/6/27



東京医科歯科大学医学部附属病院長
田中雄二郎

内容

- 今日の立場
 - 都会の大学の臨床研修プログラム責任者
- お伝えしたいこと
 - 医師派遣は県（所在地の自治体）を越えている
 - 大学と一般病院の協調が重要である
 - 政策的な誘導が必要である

本学卒業研修プログラム（H23年度一）

	プログラムⅠ（定員55名）	プログラムⅡ（定員60名）												
1年目	<table border="1"> <tr> <td>内科 6ヶ月</td> <td>救急 2ヶ月</td> <td>外科 2ヶ月</td> <td>自由/ 麻酔 2ヶ月</td> </tr> </table> <p>大学</p>	内科 6ヶ月	救急 2ヶ月	外科 2ヶ月	自由/ 麻酔 2ヶ月	<table border="1"> <tr> <td>内科 6ヶ月</td> <td>救急 2ヶ月</td> <td>外科 2ヶ月</td> <td>自由/ 麻酔 2ヶ月</td> </tr> </table> <p>協力病院</p>	内科 6ヶ月	救急 2ヶ月	外科 2ヶ月	自由/ 麻酔 2ヶ月				
内科 6ヶ月	救急 2ヶ月	外科 2ヶ月	自由/ 麻酔 2ヶ月											
内科 6ヶ月	救急 2ヶ月	外科 2ヶ月	自由/ 麻酔 2ヶ月											
2年目	<table border="1"> <tr> <td>地域 1ヶ月</td> <td>産/小/精 1-2科/ 各1ヶ月</td> <td>自由選択9-10ヶ月</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>救急当番 1ヶ月相当以上</td> </tr> </table> <p>協力病院（含む大学）</p>	地域 1ヶ月	産/小/精 1-2科/ 各1ヶ月	自由選択9-10ヶ月			救急当番 1ヶ月相当以上	<table border="1"> <tr> <td>地域 1ヶ月</td> <td>産/小/精 1-2科/ 各1ヶ月</td> <td>自由選択9-10ヶ月</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>救急当番 1ヶ月相当以上</td> </tr> </table> <p>大学</p>	地域 1ヶ月	産/小/精 1-2科/ 各1ヶ月	自由選択9-10ヶ月			救急当番 1ヶ月相当以上
地域 1ヶ月	産/小/精 1-2科/ 各1ヶ月	自由選択9-10ヶ月												
		救急当番 1ヶ月相当以上												
地域 1ヶ月	産/小/精 1-2科/ 各1ヶ月	自由選択9-10ヶ月												
		救急当番 1ヶ月相当以上												

この他 小児科・産婦人科重点研修プログラム（定員4名）

3

協力病院での研修

たすきがけ病院(プログラムⅠ・Ⅱ)				
武蔵野赤十字病院 三楽病院 土浦協同病院 北信総合病院	青梅市立総合病院 日産厚生会玉川病院 JAとりで総合医療センター 友愛記念病院	都立墨東病院 豊島病院 草加市立病院 横浜市立みなと赤十字病院	同愛記念病院 横須賀共済病院 太田西ノ内病院	大森赤十字病院 平塚共済病院 ひたちなか総合病院
プログラムⅡのみ				
東芝病院 秀和総合病院	横浜南共済病院 三島社会保険病院	柏市立柏病院	川口工業総合病院	蓮田病院 中野総合病院 東京共済病院

青梅市立総合病院



都立墨東病院



武蔵野赤十字病院



東京共済病院



横須賀共済病院



横浜市立みなと赤十字病院

4

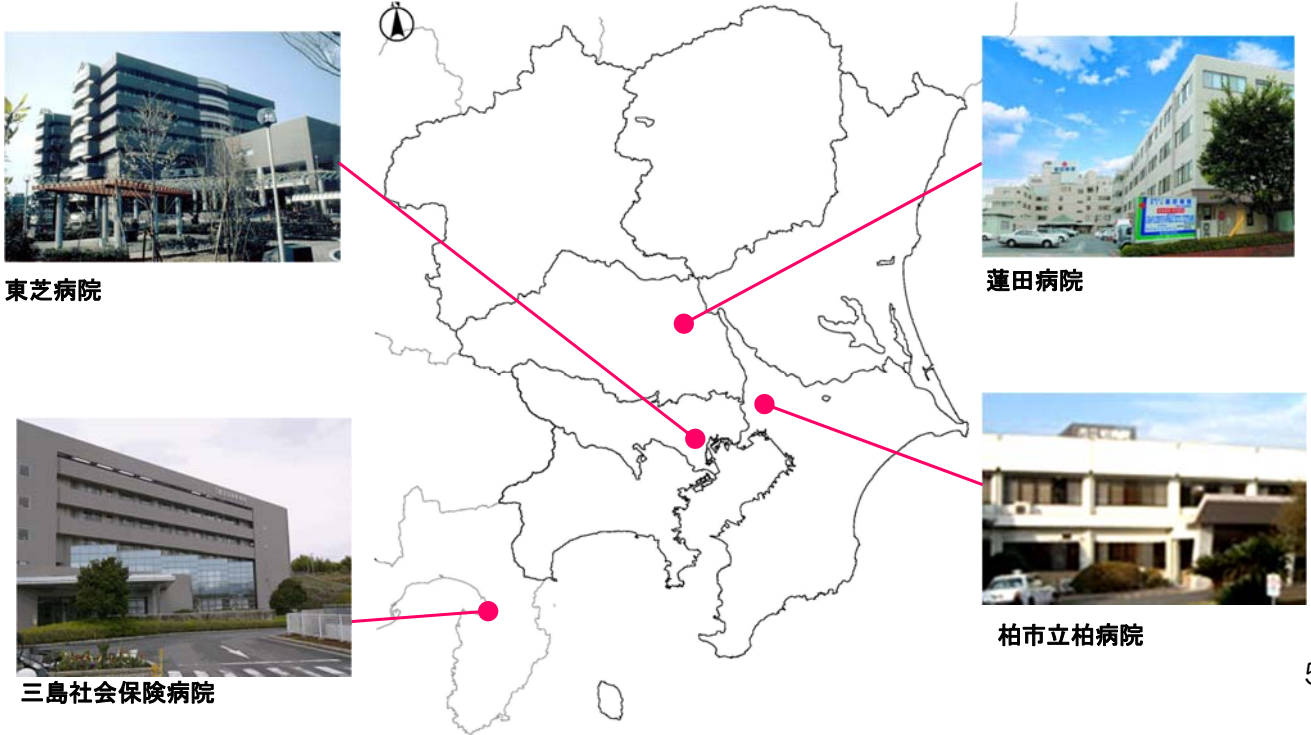
協力病院での研修（非基幹型病院も）

たすきがけ病院(プログラムI・II)

武蔵野赤十字病院 三楽病院 土浦協同病院 北信総合病院	青梅市立総合病院 日産厚生会玉川病院 JAとりで総合医療センター 友愛記念病院	都立墨東病院 豊島病院 草加市立病院 横浜市立みなと赤十字病院	同愛記念病院 横須賀共済病院 太田西ノ内病院	大森赤十字病院 平塚共済病院 ひたちなか総合病院
--------------------------------------	--	--	------------------------------	--------------------------------

プログラムIIのみ

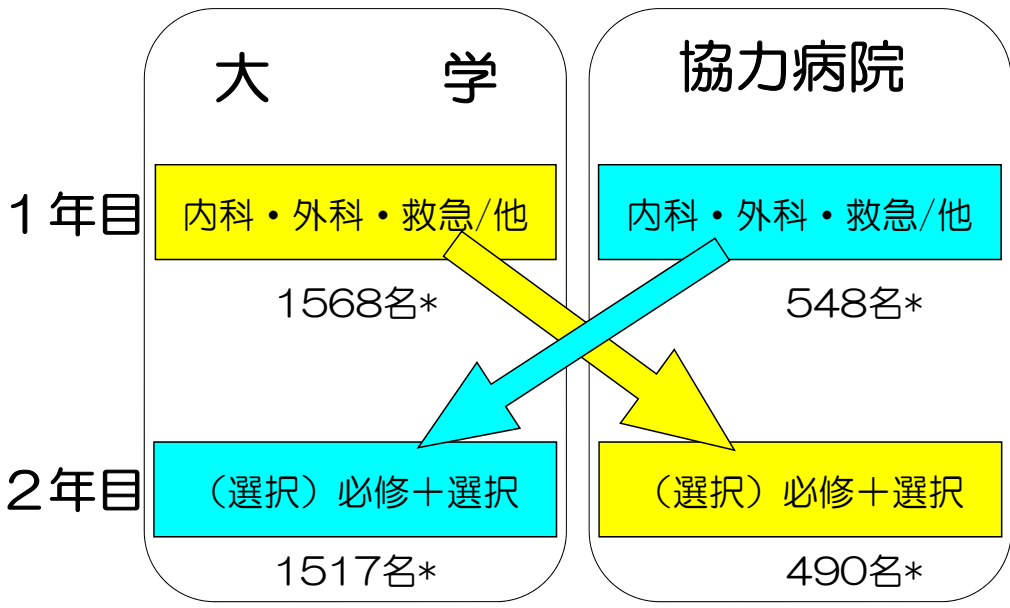
東芝病院 秀和総合病院	横浜南共済病院 三島社会保険病院	柏市立柏病院	川口工業総合病院	蓮田病院	中野総合病院	東京共済病院
----------------	---------------------	--------	----------	------	--------	--------



“たすきがけプログラム”とは



- 大学病院プログラムに特有の研修
- 特定機能病院と地域中核病院を1年ずつ経験できる
- マグネットホスピタル以外の地域病院にも研修の機会を設定できる



- H24年度国立大学附属病院プログラムに所属している研修医数
(協力病院研修医が少ないのは2年間大学プログラムもあるため)

人気臨床研修プログラムの多くは“たすき掛け”

2012年9月28日 橋本佳子(m3.com編集長)

<http://www.m3.com/iryolshin/article/159450/>

▶この記事に対する医師のメッセージ数: 1件



1位は東
2012年、
として登録
大学が、2
床研修先

表1 医師臨床研修マッチングの大学病院(本院)ランキング
(医学部を持つ医科大学・医科大学、計79の本院分を集計。「1位希望人数」が多い順にランキング。同率
率」が高い順に掲載。2012年順位のカッコ内の矢印は2011年との比較)

順位	順位					病院名	定員 (A)	1位希望 人数(B)	充足率 (B/A)
	2012年	2011年	2010年	2009年	2008年				
1(↑)	2	1	1	1	1	東京医科歯科大学医学部附属病院	119	107	89.9%
2(↓)	1	2	2	2	2	東京大学医学部附属病院	132	85	64.4%
3(→)	3	4	5	8	8	東京女子医科大学病院	78	70	89.7%
4(↑)	9	6	9	3	3	京都大学医学部附属病院	54	69	127.8%
5(↑)	8	4	44	20	20	京都府立医科大学附属病院	64	66	103.1%
6(↑)	22	7	24	4	4	兵庫医科大学病院	62	58	93.5%
7(↑)	16	12	12	20	20	筑波大学附属病院	86	57	66.3%
8(↓)	6	9	5	20	20	東京慈恵会医科大学附属病院	51	55	107.8%

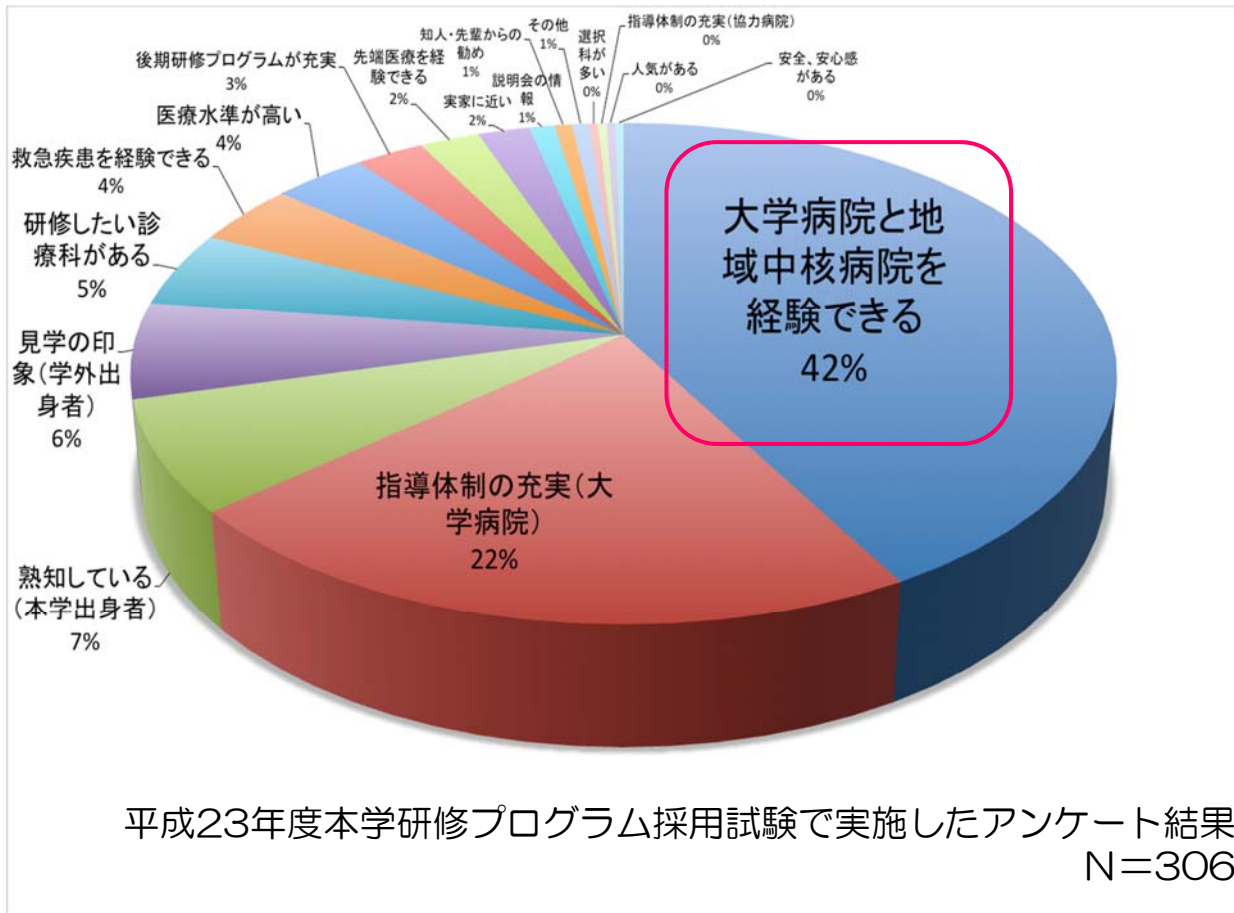
“たすきがけ”プログラムを主体とする国立大学

1年目研修医(24年)+2年目研修医(23年)

TMDU
東京医科歯科大学

大学名	自大学	協力病院	合計
東京医科歯科大学医学部附属病院	123	110	233
筑波大学附属病院	67	64	131
東京大学医学部附属病院	188	58	246
九州大学病院	89	56	145
北海道大学病院	37	53	90
富山大学附属病院	34	16	50
長崎大学病院	49	43	92
金沢大学附属病院	72	42	114
熊本大学医学部附属病院	62	42	104
大阪大学医学部附属病院	66	35	101
千葉大学医学部附属病院	32	33	65
山口大学医学部附属病院	21	31	52
宮崎大学医学部附属病院	37	28	65
信州大学医学部附属病院	43	24	67
大分大学医学部附属病院	38	24	62
鹿児島大学病院	36	19	55
香川大学医学部附属病院	46	16	62
秋田大学医学部附属病院	23	8	31

医科歯科大学プログラム 応募にあたって重視した事(1位)



未来の社会

高齢化
効率化

広い視野を持ち関連領域を理解した専門医が求められる



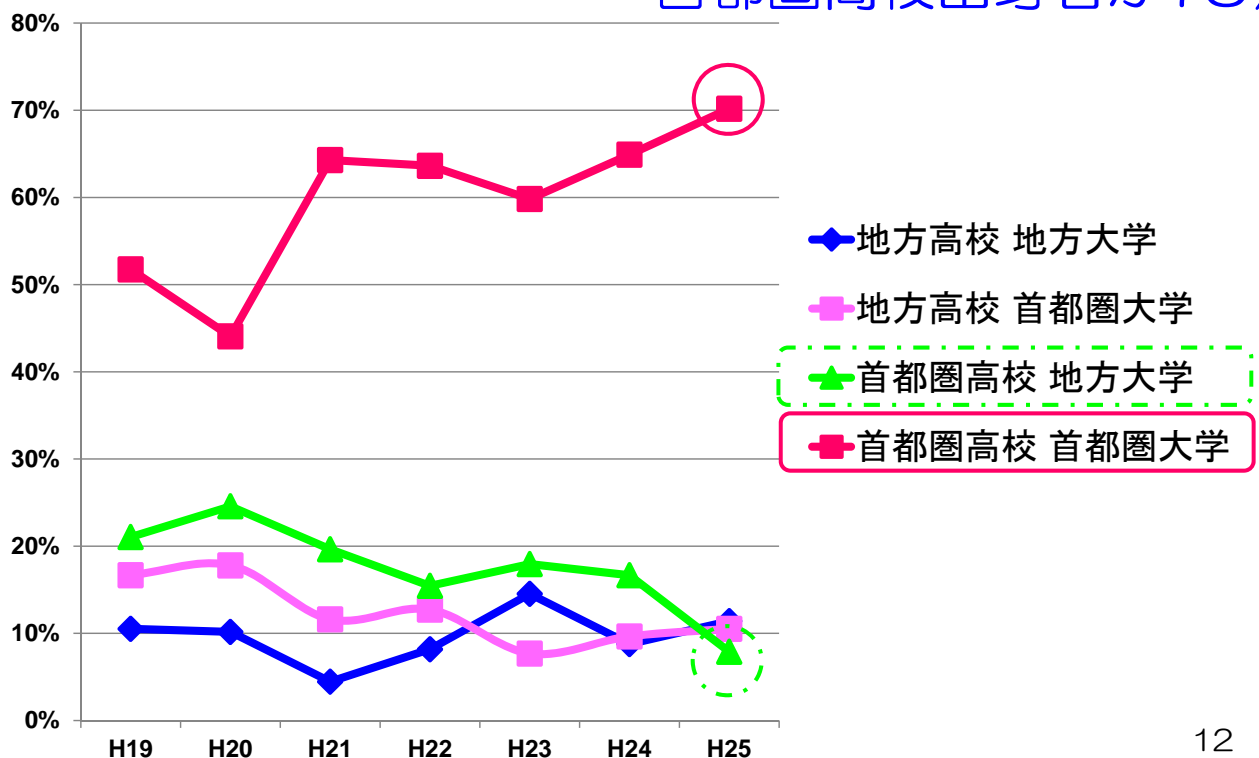
幅の広い研修で
プロフェッショナルを目指す

“都会の大学は研修医を 地方から収奪している”？

11

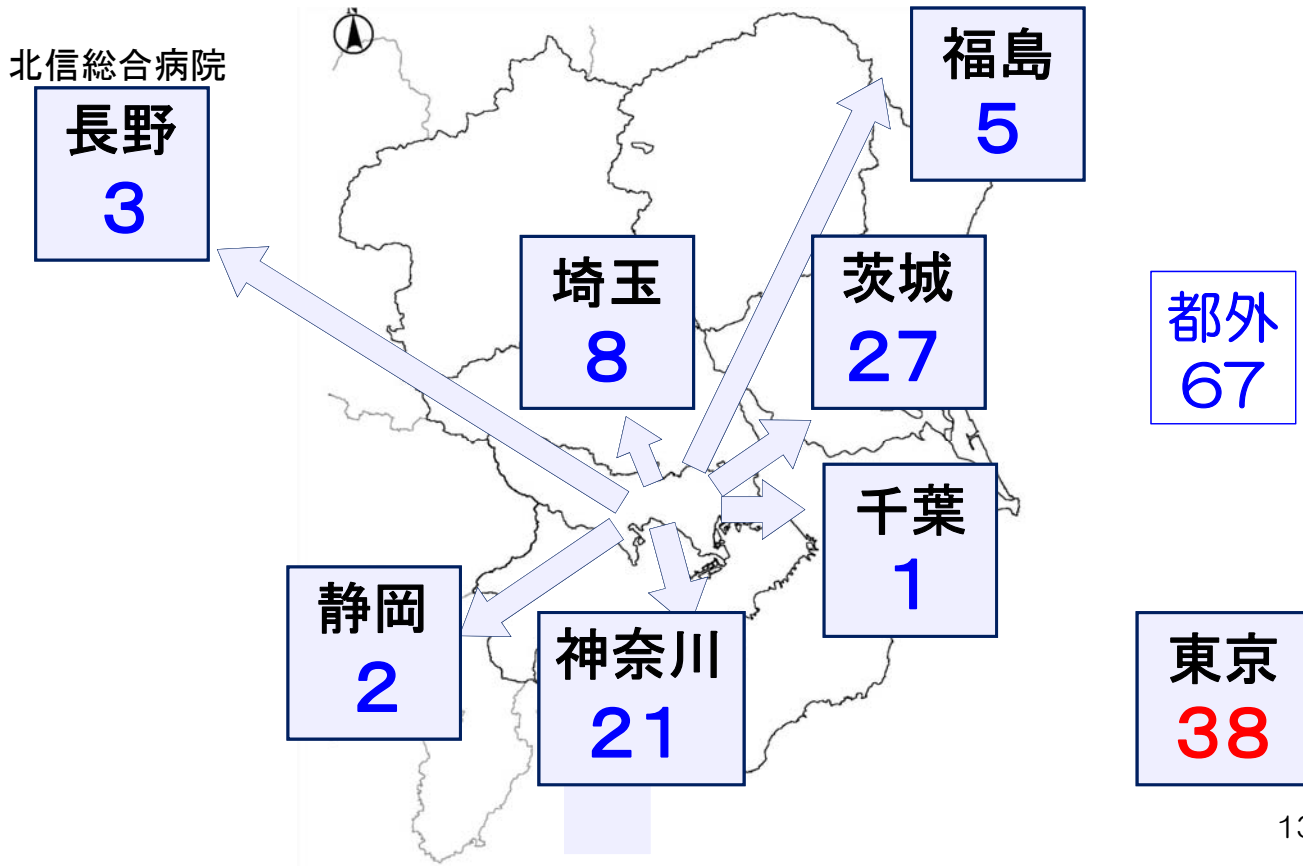
東京医科歯科大学 臨床研修プログラム参加者

首都圏高校出身者が78%

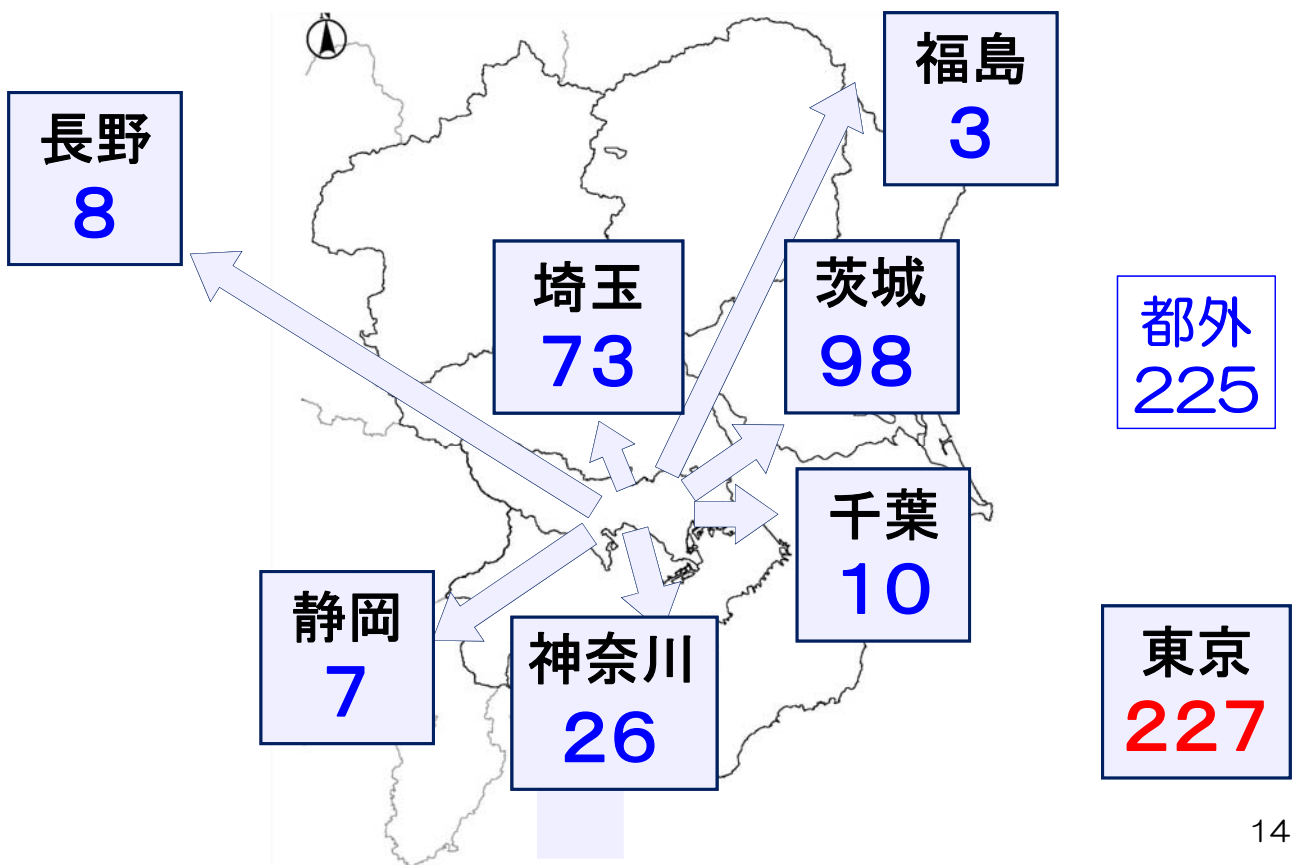


12

臨床研修の場合 (H25年度)
東京医科歯科大学から派遣されている臨床研修医数
1年目(H25年採用) + 2年目(H24年採用)



後期研修医の場合 (H24年度)
東京医科歯科大学から派遣されている医師数



都会の研修プログラムでも医療過疎地域の研修を

秋田大学1ヵ月 + 市立大森病院2ヶ月

2年目 3ヶ月×4人 地域研修

2年目 3ヶ月×4人 地域研修

邑智病院2ヵ月 + 弥栄診療所1ヵ月

東京医科歯科大学



都会の研修プログラムでも医療過疎地域の研修を



秋田大学

島根大学

東京医科歯科大学

1・2年目 3ヶ月×4人 救急・麻酔



全国紙でも地元紙でも大きく取り上げられた 広域連携初期研修プログラムの試み



医師派遣加算（現行）とは

研修医の募集を行う年度の前年度末の時点において医師派遣等が行われている常勤の医師数が20人以上の場合を1とし、5人増える毎に1を加え、65人以上の場合を10とする。（医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について）

医師不足地域への派遣評価を！

募集定員に関する考え方

	研修医受入実績 (研修中断を再開した者の受入実績を含む。)			①～③の 最大値	医師派遣 加算	希望でき る定員の 上限	都道府県 募集定員 の上限	都道府県 内の病院 の希望定 員の合計	= A ただし、 CがBを上 回っている 場合は = A×B/C	25年度 研修内 定着者数	病院の 定員の 上限	小児科・ 産科の研 修プログラ ムの特例 加算	今回情報 提供する 定員
	23年度	24年度	25年度										
①	②	③	④	⑤	A=④+⑤	B	C	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
一般	114	112	111	114	10	124	1258	1415	111	115	115		115
小・産	3	4	3							3		4	4

- 医師免許取得後7年以上15年以下の臨床経験を有し、受入病院で常勤として勤務する
- 受入病院で勤務する期間が継続して1年以上3年以下であること 他

医師派遣加算（現行）とは

研修医の募集を行う年度の前年度末の時点において医師派遣等が行われている常勤の医師数が20人以上の場合を1とし、5人増える毎に1を加え、65人以上の場合を10とする。（医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について）

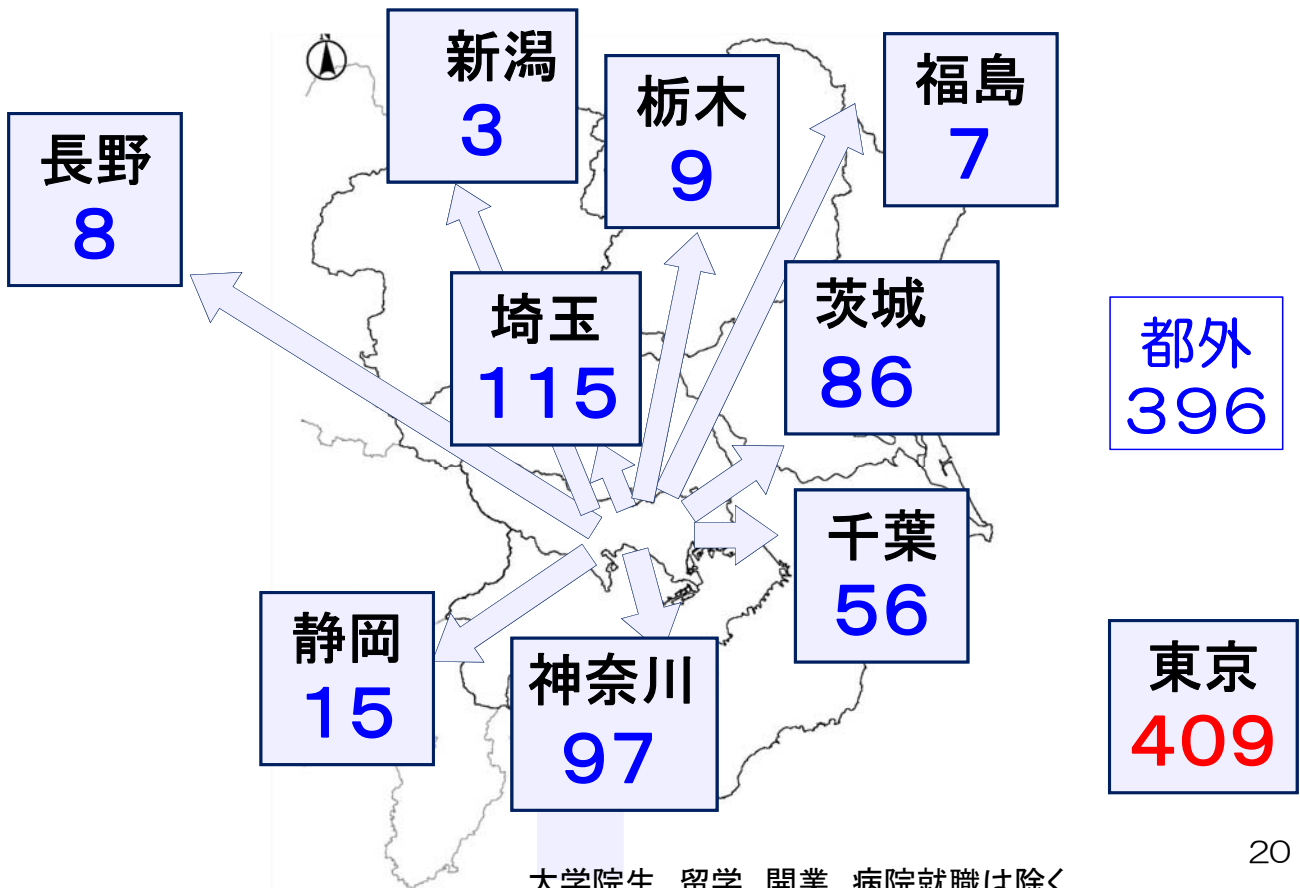
国立大学地域医師派遣数 平均557.9人*
(データベースセンター調べ H23年)

募集定員に関する考え方

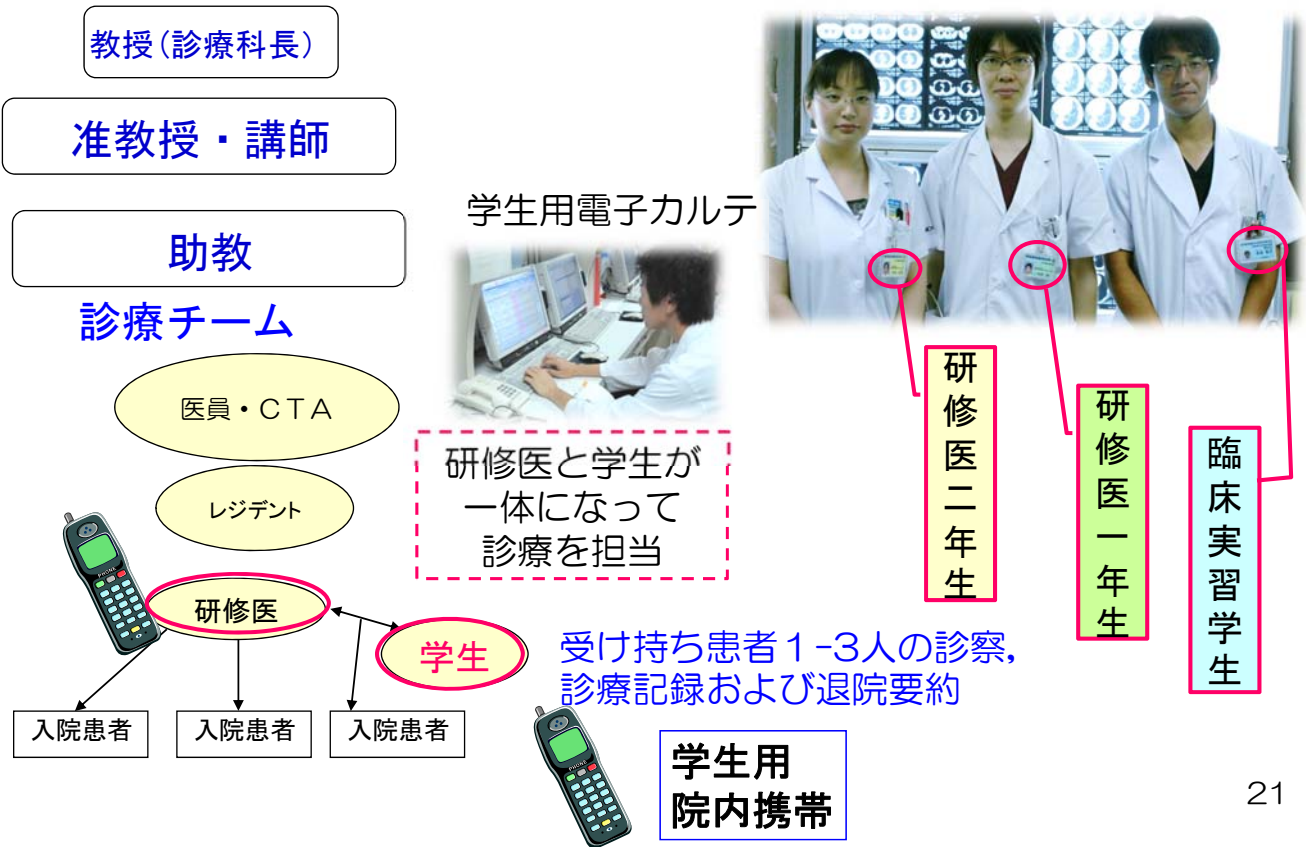
研修医受入実績(研修中断を再開した者の受入実績を含む。)			①~③の 最大値	医師派遣 加算	希望でき る定員の 上限 A=④+⑤	都道府県 募集定員 の上限 B	都道府県 内の病院 の希望定 員の合計 C	=A ただし、 CがBを上 回っている 場合は =A×B/C ⑥	25年度 研修内 定着者数 ⑦	病院の 定員の 上限 ⑧と⑦の 大きい方	小児科・ 産科の研 修プログラ ムの特例 加算 ⑨	今回情報 提供する 定員 ⑩
23年度 ①	24年度 ②	25年度 ③										
一般	114	112	111	114	124	1258	1415	111	115	115		115
小・産	3	4	3						3		4	4

- 医師免許取得後7年以上15年以下の臨床経験を有し、受入病院で常勤として勤務する
- 受入病院で勤務する期間が継続して1年以上3年以下であること 他

指導医の場合（H24年度） 東京医科歯科大学から派遣されている医師数



4週 × 10 (内科3, 外科2, ER, 小児, 産婦, 選択2)



地域枠 (茨城、長野)

地域医療実習プログラム 選択 1単位

概略

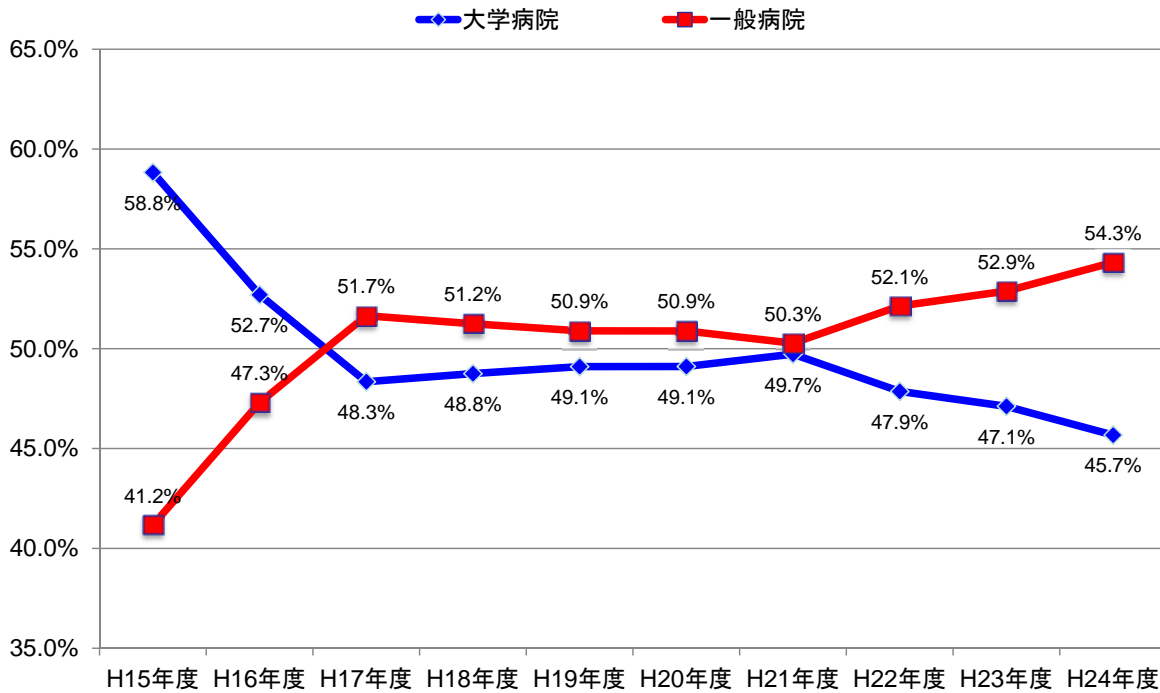
- 定員：茨城2名、長野2名
- 奨学金：茨城 月額15万円、長野 20万円。いずれも貸与期間の1.5倍に相当する期間（臨床研修期間を含む）従事した場合、全額返還を免除。
- 受験資格：茨城県内の高等学校（中等教育学校、特別支援学校の高等部を含む。）を平成25年3月卒業あるいは平成25年3月卒業見込みの者、又は保護者が茨城県に居住している者
- 考査：
- センター試験十面接

平成23年 1月15日（土）	大学入試センター試験1日目
平成23年 1月16日（日）	大学入試センター試験2日目
平成23年 1月17日（月）	推薦入試面接
平成23年 2月 8日（水）	推薦入試合格者決定
平成23年 2月 9日（水）	合格発表
平成23年 2月14日（月）	入学手続き

医師不足地域の高度
医療人を育成する
(県外 67名定員 2013年度)

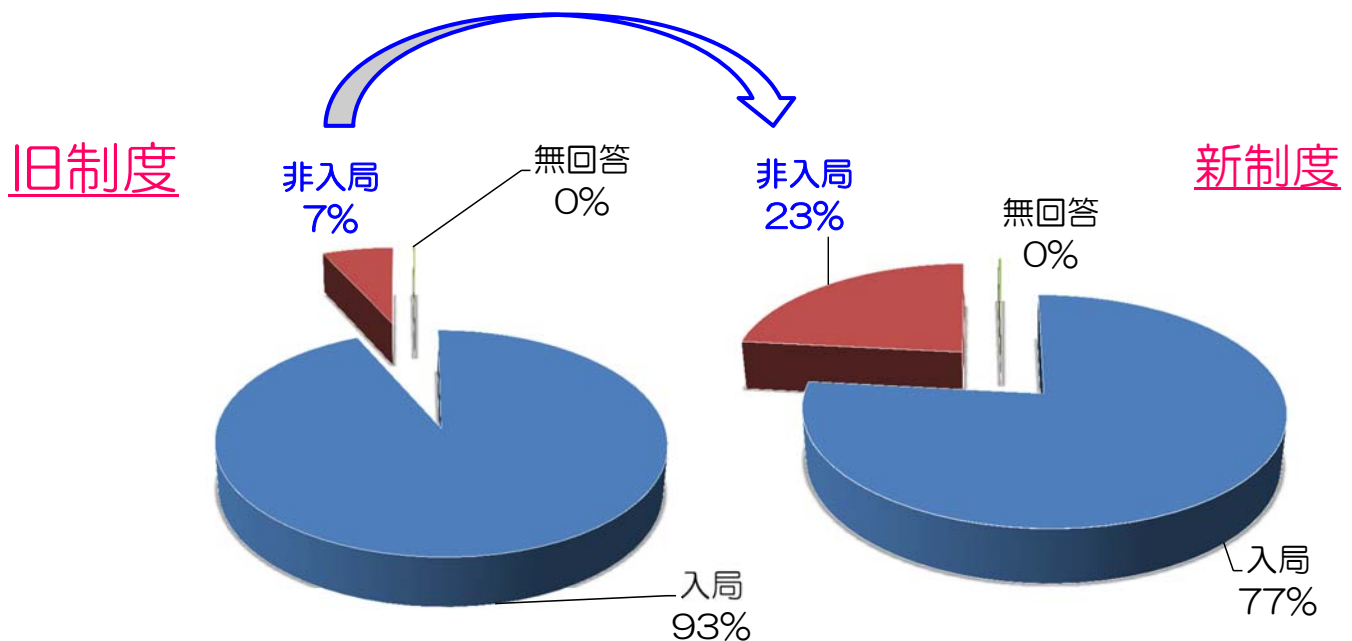
大学vs地域病院 二項対立からの離脱を

大学病院と一般病院のマッチング率推移



23

研修終了後も大学と 無関係な医師が3倍に増えた



臨床研修制度の評価に関するワーキンググループ資料より
平成22年度厚生労働科学研究「初期臨床研修制度の評価のあり方に関する研究」²⁴

“臨床研修病院群”の意義

大学と地域病院が協調する

- 教育機会を増やし医師循環を促す
 - ・ 臨床研修医、後期研修医、指導医
 - ・ 卒前臨床実習学生
- 県を越えた連携がある
 - ・ 協力型病院は県外にも
 - ・ 医学部入試地域枠（県外 67名定員 2013年度）
- 政策的な支援を
 - ・ 病院群形成を促す仕組みを（例えば大学を組み込むことを義務付ける）
 - ・ 医師派遣加算は派遣数に比例して